

BIRO ガレージ教本

【動力モーター】

BIRO は後輪内に装備された左右二つのモーターで駆動しており、左側がメイン、右側がサブとなっている。

モーターを制御するドライバーは座席シートの下に配置されており、色の違う太いコードで接続されている。電気自動車が高圧の電流が流れている為、接続を間違えば危険なので注意が必要。

モーターセンサーなどが故障した場合はセンサー単品支給がない為、モーターの取替が必要となる。

【バッテリー】

BIRO は前後に二つのバッテリーが搭載されており、主にフロントに搭載されているバッテリーが制御用、リアに搭載されているのが駆動用バッテリーとなっている。

BIRO のシステムバッテリーの電圧は 44.4 ボルトであり、必要に応じて DCDC コンバーターで電圧変換をおこなっている。

【バッテリー：制御用】

フロントに搭載されている制御用バッテリーは接続状態のまま BIRO をまったく動かさなかった場合、約 15 日間でバッテリーが放電してしまう為、BIRO を長期動かさない場合はバッテリー接続を外しておかなければならない。

(フロントバッテリーの充電がなくなりかけると、リアバッテリーより電力の供給がおこなわれるがそれでも約 20 日程度が限度である)

バッテリーの取り外しは、システムの安全上カードキーが作動してないない状態でおこなうことが望ましい。

【バッテリー：駆動用】

BIRO のバッテリーは 0 度以下では充電できない。

バッテリーの急速充電はバッテリーを痛める原因でもあることから、メーカーとして今後も急速充電の採用は無い、としている。

バッテリーは約 1000 回ほど再充電が可能である。

【ブースト】

外気温が低い時のブースト作動はバッテリーを痛める原因となるので使用しないこと。

外気温が 10 度下がればバッテリーの能力も低下し、走行距離は 10%落ちてしまう。

BIRO JAPAN

ブーストはあくまでもパワーが必要な時に作動させる為のものであり、最高速度がアップするものではない。

【施錠と解錠】

BIRO には集中ドアロックの設定がない為、カードキーで解錠出来るのは左寄りの運転席側のみで、助手席側は鍵による操作が必要である。ドアロックは外側からのみ可能である。

バッテリー充電中、ドアロックは作動しない。

車体、バッテリー共にシリアルナンバーがつけられているが、バッテリー異常時などにはシリアルナンバーの確認が必要な場合もある。

BIRO カードキーは走行中には絶対に抜かないこと。システム停止の為、突然急停止することになり危険である。

カードキーは 10 枚まで登録情報の書き換えが可能である。

【デフロスター（サマーモデル除く）】

フロントデフロスターはバッテリーの 10%ほどを使ってしまう為、使う事により走行距離が 10%ほど減ってしまう。

デフロスタースイッチは ON のみで OFF はオートとなっている。冷暖房は完備されていない。

【ウィンドウウォッシャー】

ウィンドウウォッシャーはワイパーアーム部分に取り付けられている。作動はダッシュボード上のスイッチで行う。

【メーターパネル】

メーターパネルには様々な情報が表示される。

- スピードメーター
- 左右方向指示ランプ
- 電子異常信号ランプ
- ロービーム点灯表示ランプ
- 後退駆動警告ランプ
- 車載ディスプレイ
 - バッテリー残量
 - 走行距離（一部、トータル）
 - 内部温度
 - 消費電力

BIRO JAPAN

- デフロスター作動状態
- バッテリー充電表示

故障コードなどもこのディスプレイで確認可能であるが、もちろんディスプレイはシステム起動中のみ確認可能である。

【エラーコード】

BIRO は異常があった場合、車載ディスプレイにエラーコードが表示される為、専用コンピューターなどが無くても原因を調べることが出来、そのエラーコードを確認する事により、不具合が発生している箇所の特定がある程度可能で、どこどの部位に異常が出ているかまで絞り込める。(お客様からエラーコードを教えていただだけでもかなりのヒントとなる) 逆にエラーコードが表示されない場合には ECM 本体に問題が発生していることが多い。

エラーコードはアルファベットと数字によって場所の特定が可能である。

K=モータードライバーであり

1=左側、2=右側

「K20c0・・・」といった表示の場合、「右のドライバーのどの箇所」が異常などと記号で表示されるようになっている。

【ハンドルとウインカー】

ハンドル、ワイパーやウインカーレバーなどは通常の車と同じであるが、ハンドルの高さ、位置などは調整出来ない。

ウインカーレバーは手動である為に常に自分で戻す必要がある。

【座席シート】

座席シートは固定式で前後などの位置調整はできない。

座席背もたれ後部は物置となっている。

【収納】

BIRO は収納についても考えられており、座席背もたれの後ろの中に収納の機能を有している。

背もたれは手前に引きだし、下から持ち上げるようにすれば誰でも簡単に開くことが出来る。固定式バッテリーの場合は、最後部にさらに外から開閉可能な収納スペースが確保される。(バッテリー着脱式はこの部分にバッテリーが収納されている)

オプション品については外付けタイプの収納 BOX がある。なお最大積載量は 30kg である。

BIRO JAPAN

【ヒューズ基盤】

ヒューズBOXはハンドル下に収納されており、配線や基盤なども合わせて配置されている。

【ブレーキ】

BIROのブレーキは全輪ディスクブレーキを採用している。

サイドブレーキについては自動調整の油圧式であるため、任意の調整は出来ない。

モーターセンサーなどが故障した場合はセンサーの単品支給がない為、モーターの取替が必要となる。

【タイヤ】

タイヤについては通常の車と同じように空気圧の正常に保つ必要がある。

空気圧の測定は2時間以上停止してから確認が望ましく、正常値は前後とも「2.5ber」である。

走行直後など発熱後の空気圧調整は空気圧不足となるので注意が必要である。

【メンテナンス】

BIROメンテナンスプログラムが設けられている。

メンテナンスは指定走行距離、または期間のうち先に到達した方を基準におこなう。

ボディワーク(車体、下回り、ドアの開閉状態の点検)

5,000キロ : 12ヶ月

ブレーキまわり(パッドの磨耗の目視点検、ブレーキオイルの目視残量)

5,000キロ : 6ヶ月

ブレーキオイル(ブレーキオイルの取替)

15,000キロ : 12ヶ月

ショックアブソーバー(ショックアブソーバー取付け部の目視点検)

5,000キロ : 12ヶ月

ホイールとタイヤ(タイヤ磨耗状態、ホイールリム目視点検、ショックアブソーバー目視点検)

5,000キロ : 6ヶ月

BIRO JAPAN

ステアリングとペダル(各部の目視点検、操作時の点検)

5,000 キロ : 12 ヶ月

ボルトナット(ゆるみが無いかの点検)

5,000 キロ : 12 ヶ月

灯火装置(電球や点灯状態確認)

5,000 キロ : 12 ヶ月

ガラス、ワイパー(ワイパーブレードの確認、ウォッシュ液の確認)

5,000 キロ : 12 ヶ月

BIRO 定期点検スケジュール

初回の公式点検 車両登録後 6 ヶ月

2 回目の公式点検 車両登録後 12 ヶ月

3 回目の公式点検 車両登録後 18 ヶ月

定期点検メンテナンススケジュールの点検を怠ることは保証が効かなくなることに繋がるので、定期的なメンテナンスが必要。

安全に使用していただく為に定期点検スケジュールに基づいて点検が必要である。

2018/1/8 版
BIRO JAPAN